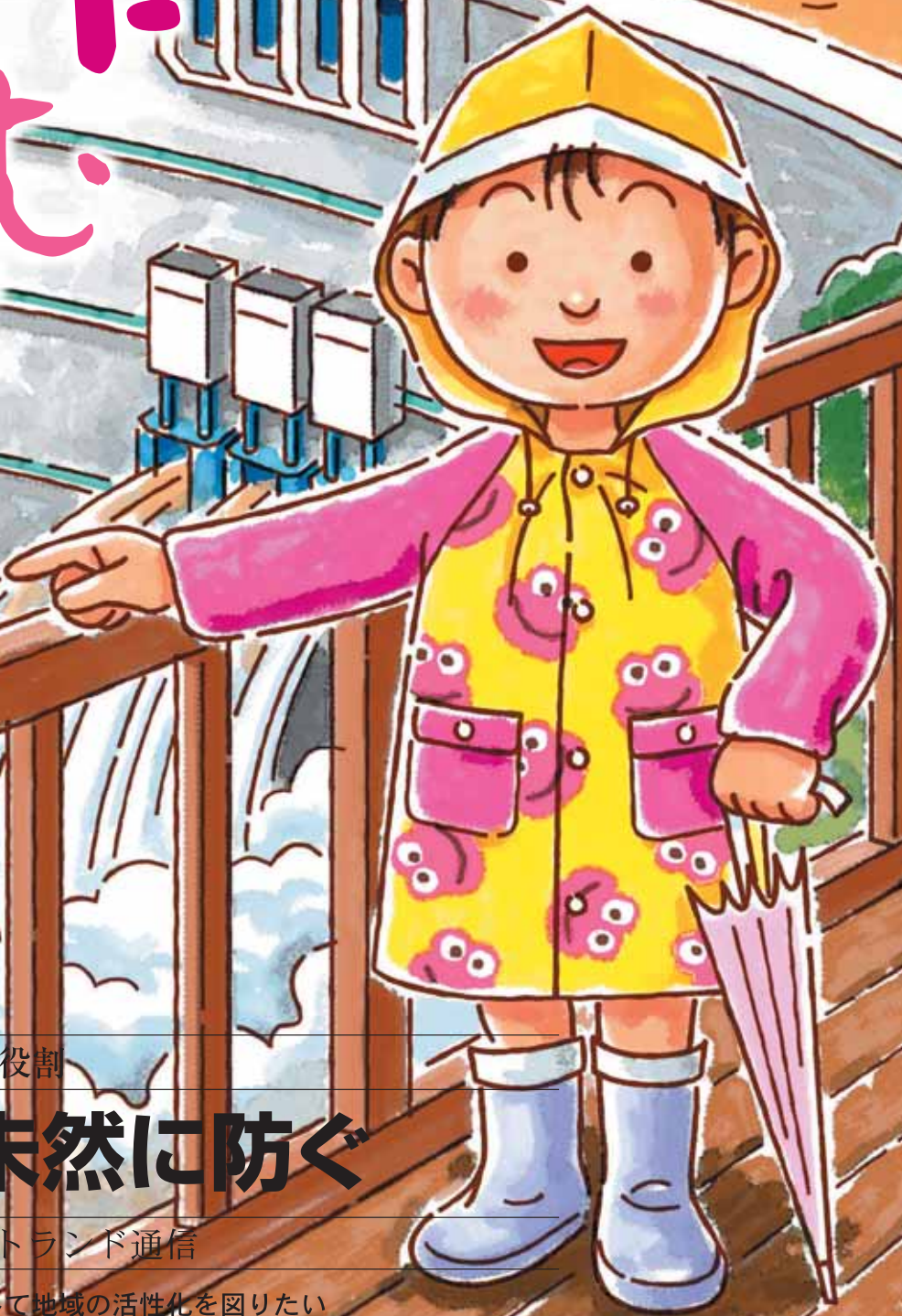


矢作ダム



特集 / 矢作ダムの役割

水害を未然に防ぐ

矢作水源フォレストランド通信

豊かな自然資源を活用して地域の活性化を図りたい

ホタルを核とした新しい取り組みがスタート!

矢作水源フォレストランド通信

矢作水源フォレストランドとは、愛知、岐阜、長野の3県・4自治体にまたがる矢作ダム水源地域の共通名称。平成18年3月に矢作ダム水源地域ビジョンを策定し、この地域の自立的、持続的な地域活性化活動を推進しています。このコーナーでは、矢作水源フォレストランドが行う活動の最新情報をお知らせします。

豊かな自然資源を活用して地域の活性化を図りたい

ホタルを核とした新しい取り組みがスタート!

現在、矢作水源フォレストランド協議会とNPO法人奥矢作森林塾(以下フォレストランド)では、水源地域の豊かで美しい自然環境を活かし「村全体が自然公園」となって、魅力的な村づくりを図っていくとする根羽村とともに、「ホタル」を核とする新しい取り組みをスタートさせています。

昔は、ごく普通にホタルがみられたという矢作川水源地域ですが、農薬の影響からか、近年はほとんど見かけることがなくなっていたのだとか。水質の改善とともに生育に適した環境が戻ってきている現在、自然資源を活かした地域活性化を図りたい根羽村とフォレストランドの共通する「熱意」が活動を大きく後押ししています。

根羽村ではエサとなるカワニナの養殖場とホタルの里(ピオトープ)を新設。フォレストランドは安定した水質を維持するために、根羽村、串原、上矢作の川に炭を入れたフン籠を設置しています。

昨年12月には幼虫の放流が行われています。今年の夏(根羽村では7月から8月頃にかけてホタルの飛ぶ姿を見ることができます)は、都会では想像もつかないような満天の星空と一緒に、ホタルの幻想的な光を眺めることができるかもしれませんね。

現在までのフォレストランドの活動

水源地域の魅力を下流域をはじめ、様々な地域へ発信し地域の活性化を図るため平成18年から活動をスタートした矢作水源フォレストランド協議会。現在まで、矢作ダム湖にたまる流木を利用した炭焼きから活動をスタートし、小中高生への自然体験の支援、源流体験ツアーの開催、上下流の交流を促進するイベント「奥矢作森林フェスティバル」など様々な活動を行ってきました。

ホタルのエサになるカワニナ



水質浄化用のフン籠には奥矢作湖・炭やきの里でつくった炭が入っています。

根羽村が新設したカワニナの養殖場とホタルの里(ピオトープ)

小学校にもカワニナの養殖をお願いしています。



国土交通省中部地方整備局
矢作ダム管理所

〒444-2841 愛知県豊田市閑羅瀬町東畑67
TEL.0565(68)2321 FAX.0565(68)2328
(ホームページアドレス) <http://www.cbr.mlit.go.jp/yahagi>

●矢作ダム管理所広報誌「矢作だむっこ」は矢作ダム管理所のホームページからダウンロードすることができます。

水害を未然に防ぐ

矢作ダムは、大雨などの時、ダム湖に入ってくる水の一部を貯め込み、ダム下流の河川に流れ込む水の量を減らすことで洪水被害を少なくしています。

矢作ダム見学会を開催しました

平成20年11月29日(土)に、矢作ダム見学会を行いました。普段見ることのできない矢作ダムの内部に入ることで、見学会には、暖かい日和も手伝って379名という大勢の参加者を迎えることができました。



〈矢作ダム見学会〉
エレベーターで管理所から60m地下に降りて、堤体内(監査廊)を見学



〈奥矢作森林フェスティバル〉
炭がもつ水質浄化などの様々な効果を学びながら、炭に直接ふれあう子どもたち



〈矢作ダム見学会〉
堤体内(監査廊)から外(歩廊)に出て、ダムやゲートを間近に見学

《過去の出水》

平成19年7月14日

梅雨前線・台風4号

矢作ダムへの最大流入量1,046m³/sを観測。その内180m³/sの洪水調節を行うことで、下流の岡崎市岩津地点での水位を約25cm(推定値)低下させ、洪水被害の拡大防止を図りました。

平成12年9月11～12日

東海(恵南)豪雨

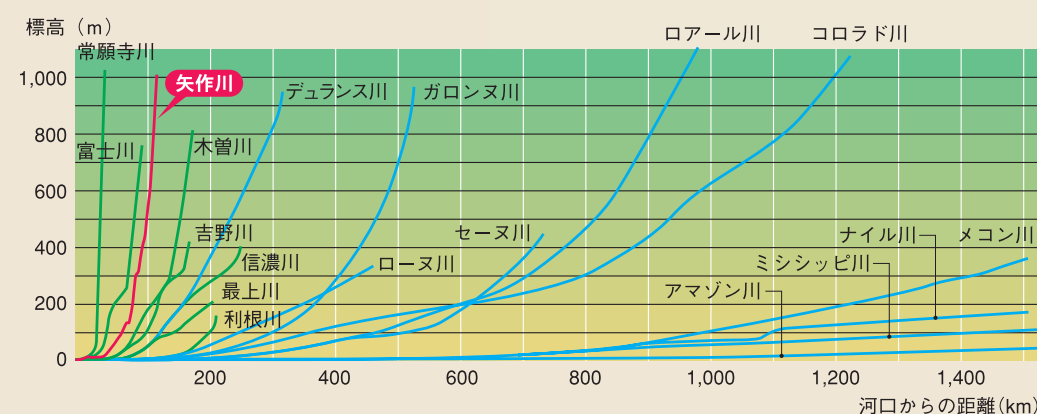
総雨量414mm。計画流入量を上回る観測史上最大の流入量を観測しました。矢作ダムではダム湖に入ってくる水の一部を貯め込む洪水調節を行ない、下流の岡崎市岩津地点での水位を約70cm(推定値)低下させ、洪水被害の拡大防止を図りました。



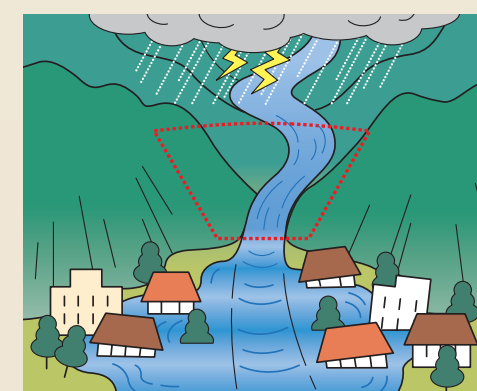
東海(恵南)豪雨では、約3万5千m³の流木と約280万m³の土砂が一度にダム湖に流れ込みました。矢作ダムがなければ、洪水とともにこれらの流木や土砂が下流へと流れ出していたかもしれません。

(写真)平成15年8月15日の台風10号による出水の際の矢作ダム放流状況

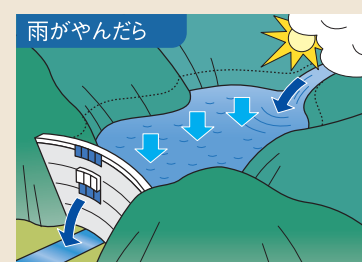
日本と諸外国の河川勾配比較



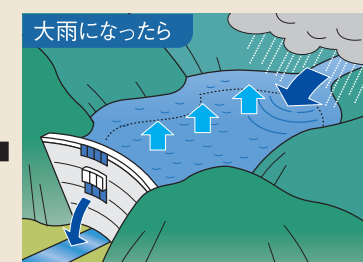
日本は、たくさんの雨が降ることに加え、川が海へたどりつくまでの距離が短く流れも急なため、大量に降った雨は、短い時間で平野部に流れ込み、洪水を引き起こす原因となります。また、日本の人口の約55%は、沖積平野といわれる洪水時に川の水位より標高の低い地域に暮らしているため、水害が発生した際には、たくさんの尊い命や貴重な財産が失われてしまうことになるのです。



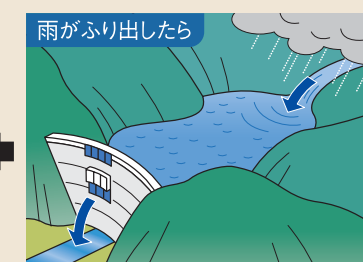
洪水発生



雨がやんで、ダム湖に入ってくる水量が減っても、しばらくはダム湖に貯め込んだ水量をダムから下流に流すことで、ダム湖の水位を普段の水位まで下げ、次の大雨にそなえます。



水量が増えてきました。このままの水量を下流に流すと川が氾濫する危険があります。ダム湖に入ってくる水の一部を貯め込み、ダムから下流へ安全な水量を流すことで、下流地域を洪水から守ります。



上流からの水量は、まだいつもと変わりませんので、ダム湖に入ってくる水量とダムから下流へ流す水量は、ほぼ同じです。

《洪水調節のしくみ》

ダムがあれば大雨で増えた川の水をいったんダム湖に貯めておき、下流には安全な水の量だけを流すことができます。



洪水防止